

令和元年度鳥取県環境学術研究等振興事業

商店街の公園化によるまちのリノベーション戦略

—とっとり方式の定式化—

テーマ

研究者

小椋 弘佳 (米子工業高等専門学校)

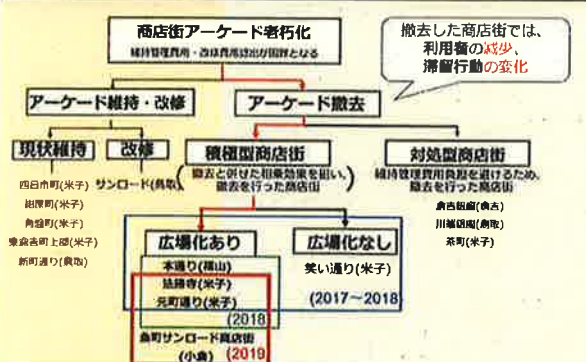
概要

全国的にアーケードの老朽化が進み整備方針の検討が急がれる中で、本研究は、アーケード撤去と合わせてコミュニティ道路としての広場化整備に至った県内事例を対象に、その事業プロセスを解明した上で改善提案をすること、得られた知見を県外に発信することを目的としている。

本年度は、鳥取県米子市と、米子市を参考にして整備された福岡県北九州市小倉北区の事例を対象に、両事例を比較分析しながら、広場化商店街の整備後の街路空間デザイン、空間の利用実態を明らかにした。その知見から、「とっとり方式」の特徴をまとめるとともに、今後の賑わい創出を目指す改善策を提案した。

研究内容

① 広場化商店街の概要と本研究の位置付け



② 調査対象・調査方法・研究の目的



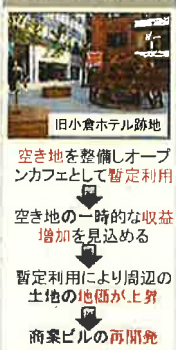
③ 調査対象商店街の概要

	元町通り	法勝寺町	魚町
整備前	撤去の際の主体組織 復興組合	株式会社 法勝寺町	協同組合
整備内容	アーケード撤去+路面整備(広場化)+建物改修		
整備内容の決定者	住民+まちづくり委員会+設計者	協同組合	
利点	維持管理費用軽減	収益増加	
不満点	天候の影響を受ける	特になし	
整備後の実態	店舗数110%	店舗数120%	
店舗数変化	来場者数若干増	来場者数130%	
ソフト面	整備後に様々なイベント開催	多くのイベント開催	
職員	6.1	5.5	

④ 広場化整備後の街路の空間構成



暫定利用(魚町)



⑤ イベント時の街路の利用実態(米子市)



⑥ イベント時の街路の利用実態(小倉市)



⑦ 提案(米子市)

- 米子市事例における賑わい創出の観点から改善案として以下の3つを挙げた。これらの改善は、整備済みの広場化街路空間を軸とした面的な賑わい創出につながると考える。ただし、天候への考慮など多くの課題点は残る。
- 空間的な設え：魚町のような仮設デッキを出し街路空間の変化を演出する
 - 家具的設え：店舗のテーブル、椅子、デッキ、看板、商品などを出し街路空間の滞留行動を促す
 - 低・未利用地空間：空き地・駐車場では魚町のように暫定的に利用する。元町パティオのような街路に面する空間は積極的に利用し、街路空間の賑わいを周辺にまで広げる

応用分野

都市計画・建築計画

連絡先

所属：米子工業高等専門学校 建築学科 准教授 氏名：小椋 弘佳
連絡先：ogura@yonago-k.ac.jp tel. 0859-24-5173